

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4095500072		
法人名	株式会社 友愛会		
事業所名	グループホーム友愛		
所在地	福岡県宮若市宮田191番地の6		
自己評価作成日	令和4年1月20日	評価結果確定日	令和4年2月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	令和4年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨今のコロナ禍の中で利用者の安全を第一に考えて衛生管理を徹底し、三密を避けコロナを持ち込まない様にホーム運営を行っている。また、利用者それぞれの状態に合った心身の活性・維持・回復を図る為に、毎日ラジオ体操や心身運動を行っている  
 コロナの為にご家族の参加は出来ないが、苑内で出来る季節毎のイベントやお誕生会をその都度実施し、利用者とのコミュニケーション作りを行っている  
 利用者のご家族が思う様に面会出来ない状況の中で、利用者の近況報告等は密に行い、ご家族に不安を与えない様に工夫し、グループホームが一つの家族と考え、利用者の尊厳を大切にご家族や地域社会の方々の協力を頂きながら、より良い施設になれる様に日々運営に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

唱和で理念を意識づけ、お互いに尊敬と感謝の心を持って接し、家族や地域社会とのふれあいを大切にして信頼関係を築き、笑顔に満ち安心した生活の支援を日々展開している。人出の少ない時間や場所を選んで季節の花見に出かけ、ラジオ体操や心身体操、起立運動が日課となり、入居者が納得できるように丁寧に説明し、できることはしてもらい、浴槽の跨ぎができるようになった入居者もある。管理者は、発語が少なくなった百歳を超えた入居者とお互いに「あかんべー」でラポールしていると、笑顔で話している。昨年医療機関との連携で看取った方の家族からは、「良くして頂いた」と謝辞があったが、職員は「何かしてあげられることはなかったか」と振り返っている。定期的に行事や入居者の状況等を家族や運営推進会議メンバーに書面で報告し、入居者が満面の笑顔になる保育園児との七夕の飾り付けなどが再開できる日を待ち望んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	58	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	59	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	60	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	61	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	62	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	63	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	64	

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホーム友愛**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時にスタッフ全員で理念を唱和し共有している。 地域社会との関わりを大事にし、利用者が日々安全安心して暮らせる事業所作りを目指していく。	厨房カウンター上に掲示した理念を唱和で意識づけ、お互いに尊敬と感謝の心を持って接し、家族や地域社会とのふれあいを大切にして信頼関係を築き、笑顔で満ち安心した生活の支援を日々展開している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で利用者の安全を優先してきたために、外部との接触は極力避けている。 状況が改善されれば地域社会との交流をさらに図っていく。	感染予防対策を講じて、お誘いを受けた近隣宅で菖蒲の花見をしたり、近隣美容室の利用を継続している。入居者が満面の笑顔になる、保育園児との七夕の飾り付けなどができる日を待ち望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で利用者の安全を優先してきたために、外部との接触は極力避けている。 状況が改善されれば運営推進会議の再開やボランティア・保育園等の交流を図り、認知症の人に対する理解・支援を深めていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で利用者の安全を優先してきたために、外部との接触は極力避けている。 運営推進会議の開催も令和2年2月開催後から現在まで開催を中止し文章で状況報告をしている状態です。	定期的に行事や入居者の状況等を家族や運営推進会議メンバーに書面で報告し、意見をお願いしているが、特段の意見はない。メンバー宅に書面を持参した折に、地域の情報を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議中止中に付き市役所・消防署・警察の担当者や民生委員には書面や電話連絡等で協力関係を密にしている。	市に出向き担当者から申請書面に関するアドバイスを受たり、居室情報を提供している。 地域同業者協議会を通じた連携を構築し、管理者は順番で昨年度から協議会の会長を務めている。	新型コロナウイルス感染状況が予測できない昨今の状況から、ICTの活用で、市担当者や同業者間での会議や研修を期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の尊厳と主体性を尊重し、拘束を安易に正当化することなく、スタッフ一人ひとりが拘束する事による、身体的・精神的弊害を理解し、拘束廃止に向けた意識を持って、身体拘束をしないケアの実施に努めている。	毎月の定例会議に、身体拘束に関する研修や会議を組み入れ、身体拘束の具体的な内容や適正化について周知している。止むを得ない拘束はなく、外出傾向のある入居者の動向を見守り、「どこに行くの」と声をかけたり、ドライブで気分転換をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の尊厳を尊重し、内部の研修などを通して高齢者虐待防止について学ぶ機会を作り、スタッフ全員で共有して、高齢者虐待をしないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングや研修などで権利擁護・成年後見制度について学ぶ機会を作っている。日々の生活の中でも必要性が有れば話し合いをして支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレットを整備し、内部で研修会を開催しているが、現在まで活用はない。コロナ禍前は地域包括支援センター職員に、地域同業者協議会のGHみやわか主催の研修会の講師をお願いしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族が理解し納得できる様に十分な説明を行って契約している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍による面会の自粛や運営会議の開催中止等で、ご家族コミュニケーション作りは十分に出来ていないが、出来るだけ意見・要望を聞く様にして運営に反映させている。	来所時や毎月発行している行事や暮らしの写真を満載したホーム便りで、意見の表出を促しているが、特段の意見はない。中には、スマホのラインで血液検査データや内服薬情報を提供している医療関係者の家族もある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼やミーティングで意見交換や情報の共有をして運営に反映させている。	夜勤専従職員から、尿取りパット使用について提案を受けたり、定例会議内容は、会議録で周知している。物品の購入の提案は、管理者が近隣法人本部に相談し、ホットプレートやデジカメ、パソコンが購入されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長が朝礼やミーティングに参加してスタッフ個々の勤務状況を把握している。資格取得や研修参加などは柔軟に対応している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に当たっては、面接時に十分説明し採用する様にしている。 スタッフ各々の能力や特技が活かせる様に配慮し、適材適所で仕事出来る様している。また、休日取得も事前に希望を聞いて出来るだけ意に沿う様に対応し権利保障に留意している。	面接時にホームは、家庭の延長の生活を支援することや、こころのつながりを喜びとする仕事であると説明している。「この人なら」と職員の口コミで入職した夜勤専従職員を含む、39歳から75歳までの男女の職員が勤務している。休憩室や昼休みを確保し、研修参加を推奨している。ホーム便り作成や調理などに個々の力量を発揮し、和気藹々と勤務している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝礼やミーティング・研修などを通して人権教育啓発活動に取り組んでいる。	理念に「お互いに尊敬と感謝の心を持って接し」と謳い、年間研修計画に人権研修を組み入れている。'管理者は姿勢を低くし入居者と目線を合わせて話かけるように指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ各々の力量に応じた資格取得や研修参加など柔軟に対応し、スキルアップを図っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	通常、GHみやわか(地域のグループホームの集まり)に参加し各種研修や実践報告などの交流を行っているが、コロナ禍によりGHみやわか会議開催は中止が続いている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時は利用者に特に注意深く声掛け傾聴し、不安を取り除く関係づくりに努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時に家族とのコミュニケーションを密に取り、不安な事や要望を聞いて信頼関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時にグループホームの特徴などを説明し、本人や家族との話し合いの中で、要望を聞いて必要としている支援を見極め対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自身で出来る事は自身ですて頂ける様に声掛けし、スタッフと共に暮らし成長していける関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に利用者支援し、出来るだけ多くの事に参加して頂くように声掛けし、利用者と一緒に支えていくという想いを共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族への聞き取りを行い馴染みの商店や美容院などにスタッフが送迎し外出支援を積極的に行っている。(コロナ禍の中で出来る範囲で実行している状況)	職員休憩室のテーブルをアクリル板の衝立で仕切り、時間等を制限した面会をお願いした期間もあったが、現在は面会を中止している。近隣の美容室を予約し、個別に送迎するなど、感染防止対策を講じて支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、趣味・嗜好をうまく噛み合わせ孤立しない様に支援している。また、生活リハビリやレクレーションなども利用者同士が声を掛け合い一緒に行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了した後も、本人・家族のその後の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の思いや暮らし方の希望、意向を把握し良く傾聴して、出来る限り希望に添う様に努力している。	家族構成や生活歴などを整備し、日々把握した思いや意向を全職員で共有している。昨年のひな祭りは、自分で選んだドレスで花束を抱えて写真に収まっている。床を這う行動を制限せず3ヶ月間の見守りで、心身の状況が把握でき、笑顔がみられるようになった入居者もある。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族と良く面談をして、これまでの生活環境やサービス利用の経過等の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中から利用者一人ひとりの生活状況や心身状態を分析し現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに主担当を決め、日々のケアの中で、他のスタッフ・家族・必要な関係者と情報交換をし合いながら、現状に即した介護計画を立てている。	担当者会議で、担当職員によるモニタリング結果や気付きを話し合い、現状に即した介護計画を作成している。高カロリーゼリーの活用で低栄養を防ぎ、食前の起立訓練などで浴槽の跨ぎができるようになったり、百歳を超えた入居者にはその人のリズムで暮らしてほしいと、褥瘡予防や食事摂取などに配慮したケアを実践している。	モニタリングを容易にするためにも、日々実践しているケアを具体的に組み入れた介護計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中で利用者一人ひとりの現状に即した介護計画を立て、スタッフ間で共有し、朝礼やミーティング等でフォローして、その都度より良い介護の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の意見や要望に柔軟に対応し、様々なニーズに合ったサービスの提供を心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを招いたり、地域の行事に参加するなどして、豊かな暮らしを楽しめる様に支援している。(コロナ禍の中で出来る範囲で実行している状況)		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の定期的な往診と、体調不良時にはその都度受診している。 かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、本人及び家族の意向に沿って、適切な医療が受けられる様に支援している。	定期的な訪問診療を支援しているが、バルンカテーテルが入浴時に抜け、医療機関看護師がカテーテル挿入に来所するなど、適切に医療につなげている。訪問歯科は入居者の希望に応じて支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問看護師との連絡を密にし、利用者が適切な看護を受けられる様に支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病院関係者とは良好な関係作りに努め、病院関係者との情報交換を密にして、入院時には、安心して治療して頂ける様に、また、早期に退院できるように支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期のあり方について十分に説明し、本人や家族の意思確認書を頂く様にしている。 医師や看護師に利用者の状況や要望を相談しながら支援している。	昨年8月1名の方を看取り、今年1月既往症の悪化で入院された方は、入院先で逝去された。逝去1日前に帰省された家族と居室で看取り、他の入居者に配慮して夜間見送っている。「良くして頂いた」と家族から謝辞があったが、職員は「何かしてあげられることはなかったか」と振り返っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに沿って、利用者の急変や事故に対応している。 定期的に職員全員で応急手当や初期対応の訓練を行い、共有化を図っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いの下、年2回の消防訓練を実施している。 昨今の異常気象を想定し、利用者が安全に避難できる方法と地域との協力体制を構築している	水害時は近隣高台の系列施設に避難予定で、職員の連絡はグループラインを活用している。6か月毎に備蓄の消費期限を確認し、全入居者の連絡先などを緊急連絡ノートに整備している。感染防止対策として、毎月全職員がPCR検査を受けている。	令和3年から3年の経過措置で策定を義務付けられた自然災害や新型コロナウイルス感染症発生時における事業継続計画を、法人全体で策定されることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を尊重しプライバシーの確保に努め、それぞれが安心して生活できる様に対応し支援している。	氏名での呼称が多いが、家族の了解を得て、馴染みのある「先生」や「〇〇ちゃん」と呼称している入居者もあるが、納得できるように丁寧に説明し、できることはしてもらっている。管理者は発語が少なくなった百歳の入居者とお互いに「あかんべー」でラポールしていると、笑顔で話している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や想いが実現できる様に、常に本人の言葉を傾聴し把握して、出来る限りの支援をしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に添って出来る限りの支援をしながら、一人ひとりに合ったその人らしい暮らしを送れる様に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問散髪や行きつけの美容室送迎等の実施、一人ひとりの趣味・嗜好に合わせておしゃれが出来る様に支援している。(コロナ禍の中で出来る範囲で実行している状況)		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事の好みを把握し、献立作りの参考にしている。 出来る範囲で準備や後片付けを手伝ってもらっている。	季節の料理や誕生日の祝い膳など、目で見ても楽しい食事作りを工夫している。節分の調査日は恵方巻で、豆まきの歓声が上がっていた。入居者の希望で献立を作り、食形にも配慮し、食べられない鶏肉は豚肉に変えたり、ピザをテイクアウトしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録に残し、必要摂取量をバランス良く確保出来る様に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に合わせて口腔ケアを行っている。 毎週金曜日には訪問歯科が来て口腔内の清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの能力に応じて出来る限りトイレ誘導して排泄出来る様に支援し、一人でも多くの利用者が布パンツをはいて頂ける様に努力している。	トイレが理解できず、「なんでこんな所に」と怒り出しても、納得できるように丁寧な説明で排尿を促している。夜間は、自立している方以外は、紙おむつやリハビリパンツ、厚手の尿取りパッドを活用して熟睡できるよう支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から適度な水分補給や食物繊維の多い食べ物の摂取を心掛け、ラジオ体操や心身体操などで体を動かす事で便秘予防を図っている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者本人の体調や希望に応じて柔軟に入浴対応している。 週3回入浴が出来る様に支援している。	浴室は明るく清掃が行き届き、大きめの個浴槽が設置され、好みのシャンプー等の持ち込みもあり、週3回を目途に入浴を支援している。2人体制で支援したり、「熱い」などには納得できるように丁寧に説明すると、入浴後は「気持ち良かった」となっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣や体調に応じて、自由に居室で休息出来る様に支援し、安眠を阻害しない様に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	普段からミーティング等で薬の摂取目的や副作用などを理解する様にスタッフ全員で徹底し、利用者一人ひとりの薬の管理・服薬支援を行い、症状の変化を観察し主治医と相談して、その都度対応している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの性格や嗜好を把握し、様々なレクリエーションを実施したり、生活リハビリを通じて、気分転換が出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・買い物・様々なイベントなど出来る限り本人の希望に添える様に外出支援を行っている。年に1~2回は外食支援を行っている。 (コロナ禍の中で出来る範囲で実行している状況)	ホーム周辺を散歩したり、人出の少ない時間や場所を選んで季節の花見に出かけている。その折の穏やかな笑顔のスナップから、外出の成果が伺える。新型コロナウイルス感染が収束した折は、現在控えている外食に出かけたいと、管理者は話している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じて、外出時にお金を持たせ、お金を持つことの大切さを理解してもらえる様に支援している。(コロナ禍の中で出来る範囲で実行している状況)		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話や手紙のやり取りを支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が季節の移り変わりを感じられる様に装飾物を取替えて季節感の演出に工夫している。共用の空間は常に清潔を保ち、空調や防臭等に配慮している。 ホームは天井が高く開放感があり、太陽光を多く取り入れられる作りになっている。	玄関前のプランターに植えられた季節の花や職員の笑顔が訪問者を迎えてくれる。天井が高く掃き出しの窓から陽光がさし込む居間は、壁に今年も節分のお面が飾られ、日課となっているラジオ体操や心身体操、起立運動などの場となり、調査日は豆まきの声が響いていた。空調が管理され、其々の場所で寛ぐ入居者の姿がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれがソファやカウンター・リビングのテーブルで自由に過ごせる様に工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者やその家族の意向を尊重して使い慣れた物や好みの物を活かして、居心地の良い空間づくりを行っている。	感染予防に留意し、居室は視認せず管理者からの聞き取りとした。壁紙を破いたり床を這う入居者の居室は状況に応じて環境を整備し、大量に持ち込まれた衣類や着物は整理し、リネン庫に保管するなど、其々が心地良く過るよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者それぞれの能力に応じて自立支援や事故防止の見守りを実施し、廊下の手すり・夜間の足元灯などで、安全確保にも工夫している。		